

～赤十字電子医学資料「コンソーシアム」に参加して～

赤十字医学資料コンソーシアム説明会に参加して

中 崎 智 恵

去る平成20年7月18日、赤十字医学資料コンソーシアム説明会に参加しました。私は、今年の5月に調度管財課へ異動になり、医薬品関係と兼務して図書館の担当をしています。思い返してみると、異動後の初めての出張ということもあり、最初は不安で頭の中が真っ白でしたが、みなさんの温かい雰囲気、徐々に緊張の糸が解れていった気がします。

説明会は、事業局医療事業部長の挨拶の後、企画課長より図書室の現状やコンソーシアムのメリット、今後の流れについて説明がありました。その後、国家公務員共済組合連合会中央図書室の熊谷智恵子氏より講演があり、最後に、各担当者より提案内容の説明がありました。正直、説明会に参加するまで、「コンソーシアム」というものがどういったものかさえ理解しておらず、業者への質疑応答の時間帯でも、右往左往していました。このような説明会に参加させていただいたことで、改めて自分の知識不足と、他施設の方々の意識の高さを痛感しました。

現在、当院では医学中央雑誌とエブスコの「MEDLINE with Full Text, DynaMed」を契約しております。医局や看護部より「近辺に医大や医学図書館がなく、迅速に最新情報を入手することが困難」「学会や研究等の資料作成に必要な情報が少ない」といった指摘を受けたことから、スムーズな医学文献入手

システム確立の為に、導入を検討したのがきっかけです。電子医学資料は、大幅なスペースを取ることなく、好きなときに自由にアクセスできる利便性があります。ただ、実際の利用状況をみたときに、はたして有効利用されているのだろうか…という、疑問が生じてしまうのが現状です。事実、正確な統計をとっているわけではありませんが、利用率に差があるという話や、慣れている冊子体の方が見やすいということも聞いています。しかし、今は物の価格が上昇傾向にあるので、少しでも安く購入できる共同購入は、非常に高いメリットがあると個人的には考えています。電子ジャーナルを導入することで、図書館の管理や保存スペースといった、図書室内の問題の軽減、更には、医者や研修医、看護師、他の職員などの、意欲や知識・技術の向上に繋がれば、最終的には「より質の高い患者への医療提供」といった相乗効果が期待できるのではないかと思います。

説明会では、病院の図書室運営の状況や、今後の日本赤十字社としての目標などについて、わずかながらも理解を深められたような気がします。自らが興味を持って、進んで求めなければ何も変わらないし、変えることも出来ないということを、改めて実感させられた説明会となりました。

さて、最後に私事ではありますが、司書資格取得の為に、今年から勉強を始めました。図書室の仕事をするにあたり、少しでも役に立てれば…と思ったのが一番の理由です。

NAKAZAKI Chie

水戸赤十字病院 図書室

説明会参加者の中でも、司書の資格をお持ちになって、専任として仕事をされている方が居ると伺い、とても刺激を受けました。私は図書室専任という立場ではない為、なかなか思うように勉強が進まなかったり、葛藤した

りする日々ではありますが、まずは当院の図書室の立ち上げを目標に頑張りたいと考えています。今後、みなさんにはお世話になることが多々あるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。